

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成26年12月25日 (2014.12.25)

【公開番号】特開2014-213179(P2014-213179A)
 【公開日】平成26年11月17日 (2014.11.17)
 【年通号数】公開・登録公報2014-063
 【出願番号】特願2013-95940(P2013-95940)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

A 6 3 F 7/02 3 3 4

【手続補正書】
 【提出日】平成26年10月23日 (2014.10.23)

【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

遊技を行うことが可能な遊技機であって、
 回路基板を収納する第 1 被覆体及び第 2 被覆体からなる基板ケースと、
 前記第 1 被覆体と前記第 2 被覆体とを封止状態とする封印シールと、
 を備え、
 前記基板ケースは、互いに異なる方向を向く複数の貼付面を有する封印シール貼付部を有し、

前記封印シールは、
 該封印シールの粘着力を低下させるために所定の溶剤が用いられたときに該溶剤が使用された痕跡を残す溶剤使用特定部を有し、

前記複数の貼付面に跨るように貼付されたときに一の貼付面と他の貼付面との間に形成される角部に位置しない部分に前記溶剤使用特定部が配置され、

前記溶剤使用特定部は、第 1 溶剤が用いられたときに該第 1 溶剤が使用された痕跡を残す第 1 溶剤使用特定部と、前記第 1 溶剤とは種類が異なる第 2 溶剤が用いられたときに該第 2 溶剤が使用された痕跡を残す第 2 溶剤使用特定部と、を含む

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 1 0
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 1 0】

前記課題を解決するために、本発明の請求項 1 に記載の遊技機は、
遊技を行うことが可能な遊技機（例えば、スロットマシン 1 / パチンコ遊技機 1 0 0 1
）であって、

回路基板（例えば、遊技制御基板 4 0 / 主基板 1 0 3 1）を収納する第 1 被覆体（例えば、ベース部材 2 0 1 / ベース部材 1 2 0 1）及び第 2 被覆体（例えば、カバー部材 2 0 2 / カバー部材 1 2 0 2）からなる基板ケース（例えば、基板ケース 2 0 0 / 基板ケース

1 2 0 0) と、

前記第 1 被覆体と前記第 2 被覆体とを封止状態（例えば、基板ケースが開封されたらその痕跡が残るように閉鎖した第 2 封止状態）とする封印シール（例えば、封印シール 4 0 0 / 封印シール 1 4 0 0 ）と、

を備え、

前記基板ケースは、互いに異なる方向を向く複数の貼付面（例えば、後貼付面 2 2 9 a、右下貼付面 2 2 9 b、前貼付面 2 2 4 a、右上貼付面 2 2 4 b / 前貼付面 1 2 2 9 a、右下貼付面 1 2 2 9 b、右上貼付面 1 2 2 4 b）を有する封印シール貼付部（例えば、ベース側封印部 2 2 9、カバー側封印部 2 2 4 / ベース側封印部 1 2 2 9、カバー側封印部 1 2 2 4）を有し、

前記封印シールは、

該封印シールの粘着力を低下させるために所定の溶剤が用いられたときに該溶剤が使用された痕跡を残す溶剤使用特定部（例えば、所定の剥離液（例えば、溶剤 A や溶剤 B など）と接触することにより該剥離液に溶解する特殊インクにて印刷形成された第 1 溶剤使用表示部 4 5 0 A ~ 4 5 0 D、第 2 溶剤使用表示部 4 6 0 A ~ 4 6 0 D / 第 1 溶剤使用表示部 1 4 5 0 A ~ 1 4 5 0 D、第 2 溶剤使用表示部 1 4 6 0 A ~ 1 4 6 0 D）を有し、

前記複数の貼付面に跨るように貼付されたときに一の貼付面と他の貼付面との間に形成される角部（例えば、後貼付面 2 2 9 a と右下貼付面 2 2 9 b との間に形成される角部 C 1、前貼付面 2 2 4 a と右上貼付面 2 2 4 b との間に形成される角部 C 2 / 前貼付面 1 2 2 9 a と右下貼付面 1 2 2 9 b との間に形成される角部 C 1 0）に位置しない部分に前記溶剤使用特定部が配置され（例えば、図 1 5（a）に示すように、封印シール 4 0 0 は、基板ケース 2 0 0 に貼付されたときに角部 C 1、C 2 に掛からない位置に第 1 溶剤使用表示部 4 5 0 A ~ 4 5 0 D、第 2 溶剤使用表示部 4 6 0 A ~ 4 6 0 D が印刷されている。 / 図 3 3（a）に示すように、封印シール 1 4 0 0 は、基板ケース 1 2 0 0 に貼付されたときに角部 C 1 0 に掛からない位置に第 1 溶剤使用表示部 1 4 5 0 A ~ 1 4 5 0 D、第 2 溶剤使用表示部 1 4 6 0 A ~ 1 4 6 0 D が印刷されている。）、

前記溶剤使用特定部は、第 1 溶剤（例えば、溶剤 A）が用いられたときに該第 1 溶剤が使用された痕跡を残す第 1 溶剤使用特定部（例えば、第 1 溶剤使用表示部 4 5 0 A ~ 4 5 0 D / 第 1 溶剤使用表示部 1 4 5 0 A ~ 1 4 5 0 D）と、前記第 1 溶剤とは種類が異なる第 2 溶剤（例えば、溶剤 B）が用いられたときに該第 2 溶剤が使用された痕跡を残す第 2 溶剤使用特定部（例えば、第 2 溶剤使用表示部 4 6 0 A ~ 4 6 0 D / 第 2 溶剤使用表示部 1 4 6 0 A ~ 1 4 6 0 D）と、を含む

ことを特徴としている。

この特徴によれば、溶剤を使用して封印シールの粘着力を低下させようとした場合、該封印シールの溶剤使用特定部に該溶剤が使用された痕跡が残ることで、溶剤を使用して封印シールの粘着力を低下させようとしたことがわかるようになるため、溶剤により剥離した封印シールを再度貼付するといった不正行為を抑制できるとともに、基板ケースに貼付されたときに溶剤使用特定部が角部に掛かることがないので、溶剤使用特定部の視認性が損なわれることを防止できる。また、第 2 溶剤が用いられたときには、第 2 溶剤使用特定部に痕跡が残るため、多様な溶剤の使用に対応することができる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 1】

本発明の手段 1 に記載の遊技機は、請求項 1 に記載の遊技機であって、

前記封印シール貼付部は、前記第 1 被覆体（例えば、ベース部材 2 0 1 / ベース部材 1 2 0 1）に設けられた第 1 被覆体側封印シール貼付部（例えば、ベース側封印部 2 2 9 / ベース側封印部 1 2 2 9）と、前記第 2 被覆体（例えば、カバー部材 2 0 2 / カバー部材

１２０２）に設けられた第２被覆体側封印シール貼付部（例えば、カバー側封印部２２４／カバー側封印部１２２４）と、を含み、

前記封印シールが前記第１被覆体側封印シール貼付部と前記第２被覆体側封印シール貼付部とに跨るように貼付されたときに該第１被覆体側封印シール貼付部と該第２被覆体側封印シール貼付部との境界部（例えば、境界部Ｚ）に位置しない部分に前記溶剤使用特定部が配置されている（例えば、図１５（ａ）に示すように、封印シール４００は、基板ケース２００に貼付されたときに境界部Ｚに掛からない位置に第１溶剤使用表示部４５０Ａ～４５０Ｄ、第２溶剤使用表示部４６０Ａ～４６０Ｄが印刷されている。／図３３（ａ）に示すように、封印シール１４００は、基板ケース１２００に貼付されたときに境界部Ｚに掛からない位置に第１溶剤使用表示部１４５０Ａ～１４５０Ｄ、第２溶剤使用表示部１４６０Ａ～１４６０Ｄが印刷されている。）

ことを特徴としている。

この特徴によれば、封止状態としたときに溶剤使用特定部が境界部に掛かることがないので、例えば、遊技店において回路基板の検査等のために封印シールを破断して基板ケースを開放したことにより溶剤使用特定部が破断してしまうことで、それ以前に溶剤と接触した痕跡が表れていたことが判りにくくなってしまうことが防止される。

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１２

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１２】

本発明の手段２に記載の遊技機は、請求項１または手段１に記載の遊技機であって、

前記溶剤使用特定部は、前記封印シール（例えば、封印シール４００）が前記基板ケース（例えば、基板ケース２００）に貼付されたときに前記回路基板（例えば、遊技制御基板４０）において制御用マイクロコンピュータ（例えば、メイン制御部４１（メインＣＰＵ４１ａ、ＲＯＭ４１ｂ、ＲＡＭ４１ｃ、Ｉ／Ｏポート４１ｄ））が実装される実装面（例えば、実装面４０ａ）と同方向を向く部分に配置されている（例えば、図１５（ａ）に示すように、封印シール４００は、基板ケース２００に貼付されたときに実装面４０ａと同方向（上方）を向く部分である上部領域Ｒ１に第１溶剤使用表示部４５０Ａが配置されている）

ことを特徴としている。

この特徴によれば、溶剤使用特定部及び制御用マイクロコンピュータの実装面の双方を一緒に視認することができることで、溶剤使用特定部及び制御用マイクロコンピュータに対する不正行為の確認作業を容易に行うことが可能となるため、作業負担を軽減できる。

【手続補正５】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１３

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１３】

本発明の手段３に記載の遊技機は、請求項１、手段１、手段２のいずれかに記載の遊技機であって、

前記封印シール（例えば、封印シール４００／封印シール１４００）は、各々を識別可能な識別情報（例えば、シリアル番号や２次元バーコードなど）が表示された識別情報表示部（例えば、第１識別情報表示部４５１／第１識別情報表示部１４５１、第２識別情報表示部４５２／第２識別情報表示部１４５２）を有し、

前記基板ケースに貼付されたときに互いに同方向を向く部分に前記溶剤使用特定部と前記識別情報表示部とが配置されている（例えば、図１５（ａ）に示すように、封印シール４００は、基板ケース２００に貼付されたときに互いに同方向（上方）を向く部分である

上部領域 R 1 に第 1 溶剤使用表示部 4 5 0 A と第 1 識別情報表示部 4 5 1 及び第 2 識別情報表示部 4 5 2 とが配置されている。 / 図 3 3 (a) に示すように、封印シール 1 4 0 0 は、基板ケース 1 2 0 0 に貼付されたときに互いに同方向 (右側方) を向く部分である右側方領域 R 1 0 に第 1 溶剤使用表示部 1 4 5 0 A , 1 4 5 0 B と第 1 識別情報表示部 1 4 5 1 及び第 2 識別情報表示部 1 4 5 2 とが配置されている)

ことを特徴としている。

この特徴によれば、溶剤使用特定部及び識別情報表示部の双方を一緒に視認することができることで、溶剤使用特定部及び識別情報表示部の確認作業を容易に行うことが可能となるため、作業負担を軽減できる。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 6】

本発明の手段 6 に記載の遊技機は、請求項 1、手段 1 ~ 手段 5 のいずれかに記載の遊技機であって、

前記基板ケース (例えば、基板ケース 2 0 0 / 基板ケース 1 2 0 0) は、前記封印シール (例えば、封印シール 4 0 0 / 封印シール 1 4 0 0) が貼付される封印シール貼付部 (例えば、ベース側封印部 2 2 9、カバー側封印部 2 2 4 / ベース側封印部 1 2 2 9、カバー側封印部 1 2 2 4) を有し、

前記封印シール貼付部の周囲には、貼付された封印シールの周囲を囲むように周壁部 (例えば、位置決め凸条 4 1 1 , 4 2 1 / 位置決め凸条 1 4 1 1 , 1 4 2 1) が形成されている

ことを特徴としている。

この特徴によれば、封印シールを剥離する際に周囲の周壁部が邪魔になって剥離しにくくなるため、溶剤により剥離した封印シールを再度貼付するといった不正行為を抑制できる。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 8】

このようにスタートスイッチ 7 を除く各種電気部品と遊技制御基板 4 0 とを、スロットマシン 1 の本体 (本実施例では、筐体 1 a) 所定箇所に取り付けた電源基板 1 0 1 及び各中継基板 1 1 0、1 2 0、8 0 を経由して配線接続することで、遊技制御基板 4 0 からスロットマシン 1 の本体所定箇所に個々に配設される複数の電気部品との配線の取りまとめが容易になるとともに、コネクタ接続部が常に中継基板または遊技制御基板 4 0 に設けられることになり、これにより各電気部品それぞれのコネクタ接続部が固定されるため、配線接続作業時においてコネクタ接続部を探したり、接続する配線の種類を間違えること等が防止される。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 9】

また、本実施例では、ゲームの進行に応じて遊技制御基板 4 0 に対して信号を入力する第 1 の電気部品 5、6、7、8、3 1、3 3 L、3 3 C、3 3 R、3 5 及びゲームの進行

に応じて遊技制御基板 40 から信号が出力される第 2 の電気部品 32 L, 32 C, 32 R、34 のうち、スタートスイッチ 7 と遊技制御基板 40 との間のコネクタ接続のみコネクタ規制部材 650 を設けてコネクタ同士の接続の解除を規制している。すなわちその信号がなければ遊技を進行させることができない電気部品の一つであるスタートスイッチ 7 (スタートスイッチ 7 からの信号が入力されなければゲームを開始することが不可能となる) と遊技制御基板 40 との間のコネクタ接続のみコネクタ規制部材 650 を設けてコネクタ同士の接続の解除を規制しており、他の電気部品と遊技制御基板 40 との間でコネクタ同士の接続を解除して打ち込み器具のコネクタに差し替えた場合でも、実質的に遊技を自動的に進行させることができなくなるため、最小限の規制で不正行為を防止することが可能となり、これらコネクタ同士の接続を解除するための部品点数を減らすことができる。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0084

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0084】

そして、サブ CPU 91a は、その起動時において RAM 91c の全ての領域に格納されたデータに基づいて RAM パリティを計算し、RAM パリティが 0 であることを条件に、RAM 91c に記憶されているデータに基づいてサブ CPU 91a の処理状態を電断前の状態に復帰させるが、RAM パリティが 0 でない場合 (1 の場合) には、RAM 異常と判定し、RAM 91c を初期化するようになっている。この場合、サブ CPU 91a と異なり、RAM 91c が初期化されるのみで演出の実行が不能化されることはない。

【手続補正 10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0121

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0121】

(基板ケース)

基板ケース 200 は、図 6 に示すように、回路基板の一例である遊技制御基板 40 の裏面 (他面) 40b 側を覆う第 1 被覆体としてのベース部材 201 と、遊技制御基板 40 の実装面 (一面) 40a 側を覆う第 2 被覆体としてのカバー部材 202 と、から構成され、遊技制御基板 40 を挟持するように組み付けられるものである。尚、遊技制御基板 40 の実装面 40a には、特に詳細な図示はしないが、メイン CPU 41a、ROM 41b、RAM 41c、I/O ポート 41d を備えたマイクロコンピュータ (制御用マイクロコンピュータ) からなるメイン制御部 41 や、他の基板からのケーブルの一端に設けられたケーブル側コネクタ等が接続される基板側コネクタ 620a ~ 620d 等が多数実装されている。

【手続補正 11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0133

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0133】

取付封止片 230、予備用取付封止片 231、予備用封止片 232 の筒状部は、上面が開口する有底四角筒状に形成され、内部にワンウェイネジ 240a ~ 240c を収納可能な大きさを有し、ワンウェイネジ 240a ~ 240c の上部を収納可能な大きさに形成されているとともに、底部には、ワンウェイネジ 240a ~ 240c の頭部の直径よりも小径の取付孔 234、235 が形成されている。取付孔 234 は、封止状態において、ネジ孔 210 の対向位置に配置される。取付孔 235、235 は、後述する取付状態において

、ネジ穴 3 1 6 a , 3 1 6 b の対向位置に配置される。

【手続補正 1 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 4 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 4 0】

そして、各係合片 2 2 0 が各係合溝 2 5 0 の端部に当接するとともに、カバー側溶着部 2 2 3 の右端部が規制片（図示略）に当接してスライド移動が規制されると、左側の短辺では、ベース部材 2 0 1 の係止片 2 0 3 , 2 0 3 が挿通穴 2 2 2 , 2 2 2 内に挿通される。このように、各係合片 2 2 0 が各係合溝 2 5 0 に係合され、カバー側溶着部 2 2 3 の右端部が規制片（図示略）に係止され、係止片 2 0 3 , 2 0 3 が挿通穴 2 2 2 , 2 2 2 内に挿通されることによりベース部材 2 0 1 にカバー部材 2 0 2 が組み付けられ、ベース部材 2 0 1 に対するカバー部材 2 0 2 の組付位置が決定し、ベース部材 2 0 1 とカバー部材 2 0 2 とが位置合わせ（合体）されてベース部材 2 0 1 の開口が閉鎖された閉鎖状態（係止状態）となり、後述する封止が可能な状態となる（図 9 及び図 1 0 参照）。

【手続補正 1 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 4 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 4 5】

封印シール 4 0 0 は、図 1 5 (a) に示す封印シール 4 0 0 の正面視において左右幅方向を向く長辺 L 1 0 と上下方向を向く短辺 L 2 0 とを有する略長方形に形成されており、図 1 5 (b) に示すように、封印シール 4 0 0 は、封印シール 4 0 0 を貼付可能とするための粘着剤層 4 0 2 と、該粘着剤層 4 0 2 が形成されるシール基材 4 0 1 と、から構成されており、粘着剤層 4 0 2 の表面には剥離紙 4 0 4 が貼付されている。この剥離紙 4 0 4 は封印シール 4 0 0 を基板ケース 2 0 0 に貼り付ける際に剥離される。尚、粘着剤層 4 0 2 は、シール基材 4 0 1 の全域にわたり設けられている。

【手続補正 1 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 2 2 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 2 2 5】

底板 3 1 0 a における右側の短辺部近傍には、基板ケース 2 0 0 の取付封止片 2 3 0 及び予備用取付封止片 2 3 1 に挿通されるワンウェイネジ 2 4 0 a , 2 4 0 b が取り付けられるネジ穴 3 1 6 a , 3 1 6 b が形成された取付台座 3 1 5 が装着される台座装着穴 3 1 7 が形成されている。取付台座 3 1 5 は、底板 3 1 0 a の裏面側から台座装着穴 3 1 7 内に嵌合により装着されるようになっている。装着時においては、図 1 3 (a) に示すように、ネジ穴 3 1 6 a , 3 1 6 b は底板 3 1 0 a の前面よりも前方に突出した状態で取付封止片 2 3 0 及び予備用取付封止片 2 3 1 の取付孔 2 3 5 , 2 3 5 に対向配置されるようになっている。

【手続補正 1 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 2 4 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 2 4 0】

また、仮止め状態としたときに、カバー部材 2 0 2 における取付封止片 2 3 0 及び予備

用取付封止片 2 3 1 が取付台座 3 1 5 に対向配置され、取付封止片 2 3 0 及び予備用取付封止片 2 3 1 の取付孔 2 3 5 , 2 3 5 が取付台座 3 1 5 のネジ穴 3 1 6 a , 3 1 6 b に合致する。ここで、図 1 3 (a) に示すように、取付封止片 2 3 0 内に収容されていたワンウェイネジ 2 4 0 a をドライバーによりネジ穴 3 1 6 a に螺入すると、可動ベース 3 0 2 に対して基板ケース 2 0 0 が離脱不能に取り付けられる。

【手続補正 1 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 2 4 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 2 4 1】

すなわち、ワンウェイネジ 2 4 0 a は、一度ネジ穴 3 1 6 a に取り付けられると、ドライバー等の工具を操作溝に差し込んでも、ワンウェイネジ 2 4 0 a を逆回転させることができない、つまり二度とネジ穴 3 1 6 a から取り外すことはできない取付部材であるため、基板ケース 2 0 0 は、該基板ケース 2 0 0 または可動ベース 3 0 2 等の所定部位（例えば取付封止片 2 3 0 の切断片 2 3 3 等）を切断（破壊）しない限り可動ベース 3 0 2 から取り外すことができない取付状態で取り付けられる。

【手続補正 1 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 2 4 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 2 4 2】

また、遊技制御基板 4 0 の検査等のために基板ケース 2 0 0 を可動ベース 3 0 2 から取り外す場合、取付封止片 2 3 0 の切断片 2 3 3 を切断する必要があるばかりか、ネジ穴 3 1 6 a にねじ込まれたワンウェイネジ 2 4 0 a 及び基板ケース 2 0 0 から切断された取付封止片 2 3 0 を取付台座 3 1 5 から取り外すことができず、可動ベース 3 0 2 に保持されて残存するため、当該取付封止片 2 3 0 にワンウェイネジ 2 4 0 a を取り付け、同じように可動ベース 3 0 2 に取り付けることはできない。すなわち、一度可動ベース 3 0 2 に対する基板ケース 2 0 0 の取付状態を解除した後は、一度取付に使用した取付封止片 2 3 0 とは別の予備用取付封止片 2 3 1 に予備のワンウェイネジ 2 4 0 b を取り付け、別のネジ穴 3 1 6 b に取り付けることになる。

【手続補正 1 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 2 5 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 2 5 4】

また、本実施例では、基板ケース 2 0 0 は、図 2 に示すように、筐体 1 a の背板上部に取り付けられている。また、各種ケーブル 6 0 0 a ~ 6 0 0 c 、 6 0 0 k が接続される基板側コネクタ 6 2 0 a ~ 6 2 0 c 等が臨むコネクタ用開口 2 3 6 a ~ 2 3 6 g は、基板ケース 2 0 0 の下部に沿って配設されている。そして、遊技制御基板 4 0 に接続されるこれらケーブル 6 0 0 a ~ 6 0 0 c 、 6 0 0 k のうち、ケーブル 6 0 0 a ~ 6 0 0 c は、図 1 4 に示すように、基板ケース 2 0 0 の下方位置において筐体 1 a の左側板内面に設けられた配線フック H F によりまとめて配線されている。また、他のケーブル 6 0 0 k は下方に延設され、筐体 1 a における基板ケース 2 0 0 よりも下方位置に配設されたリール中継基板 1 2 0 等に接続されている。

【手続補正 1 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 2 6 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0266】

また、封印シール400は、回路基板の一例である遊技制御基板40において制御用マイクロコンピュータ（メインCPU41a、ROM41b、RAM41c、I/Oポート41dを備えたマイクロコンピュータ）が実装される実装面40aと同方向（上方）を向く部分である上部領域R1に第1溶剤使用表示部450A及びシール基材401の左方側に配置された第2溶剤使用表示部460A～460Cが配置されているため、第1溶剤使用表示部450A、シール基材401の左方側に配置された第2溶剤使用表示部460A～460C及び制御用マイクロコンピュータの実装面40aの双方を一緒に視認することができることで（図14（a）及び図20（a）参照）、溶剤使用表示部450A及び制御用マイクロコンピュータ（メインCPU41a、ROM41b、RAM41c、I/Oポート41dを備えたマイクロコンピュータ）に対する不正行為の確認作業を容易に行うことが可能となるため、作業負担を軽減できる。

【手続補正20】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0267

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0267】

尚、制御用マイクロコンピュータ（メインCPU41a、ROM41b、RAM41c、I/Oポート41dを備えたマイクロコンピュータ）に対する不正行為の確認作業とは、例えば、メインCPU41a、ROM41b、RAM41c、I/Oポート41dに不正な回路基板が接続されていたり、メインCPU41a、ROM41b等が不正なCPU、ROM等に交換されたりしていないかを確認する作業であるため、これらが搭載される実装面40aと溶剤使用表示部450Aとが上方に向けて配置されていれば、基板ケース200の前面側から双方の状況を一度に確認することが可能となる。

【手続補正21】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0269

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0269】

また、本実施例では、封印シール400は、これら第1溶剤使用表示部450A、シール基材401の左方側に配置された第2溶剤使用表示部460A～460C、第1識別情報表示部451及び第2識別情報表示部452とが互いに同方向（上方）を向く部分である上部領域R1に配置されていることで、制御用マイクロコンピュータ（メインCPU41a、ROM41b、RAM41c、I/Oポート41dを備えたマイクロコンピュータ）が実装される実装面40aと同方向（上方）を向くことになることで、第1溶剤使用表示部450A、シール基材401の左方側に配置された第2溶剤使用表示部460A～460C、第1識別情報表示部451及び第2識別情報表示部452の確認作業と一緒に、制御用マイクロコンピュータに対する不正行為の確認作業を容易に行うことが可能となるため、作業負担を軽減できる。

【手続補正22】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0281

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0281】

また、本実施例1では、ベース側封印部229及びカバー側封印部224からなる封印

部の周囲には、貼付された封印シール４００の周囲を囲むように周壁部である位置決め凸条４１１，４２１が形成されていることで、封印シール４００を剥離する際に周囲の位置決め凸条４１１，４２１が邪魔になって剥離しにくくなるため、溶剤により剥離した封印シール４００を再度貼付するといった不正行為を抑制できる。

【手続補正２３】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０２９４

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０２９４】

尚、本実施例では、基板ケース２００の被取付部としての取付封止片２３０、予備用取付封止片２３１が取り付けられる可動ベース３０２の取付部としてのネジ穴３１６ａ，３１６ｂを有する取付台座３１５は、可動ベース３０２に対して取り付け、取り外し可能に設けられているため、基板ケース２００を２回取り外した場合でも、取付台座３１５のみを交換すれば、可動ベース３０２を交換せずに使いまわすことが可能であるが、これらネジ穴３１６ａ，３１６ｂは可動ベース３０２に直接形成されていてもよい。

【手続補正２４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０３０４

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０３０４】

遊技領域１００７の中央付近には、液晶表示装置（ＬＣＤ）で構成された演出表示装置１００９が設けられている。演出表示装置１００９では、第１特別図柄または第２特別図柄の可変表示に同期した演出図柄（飾り図柄）の可変表示（変動）が行われる。よって、演出表示装置１００９は、識別情報としての演出図柄（飾り図柄）の可変表示を行う可変表示装置に相当する。演出表示装置１００９は、演出制御基板１０８０に搭載されている演出制御用マイクロコンピュータによって制御される。演出制御用マイクロコンピュータが、第１特別図柄表示器１００８ａで第１特別図柄の可変表示が実行されているときに、その可変表示に伴って演出表示装置１００９で演出表示を実行させ、第２特別図柄表示器１００８ｂで第２特別図柄の可変表示が実行されているときに、その可変表示に伴って演出表示装置１００９で演出表示を実行させるので、遊技の進行状況を把握しやすくすることができる。

【手続補正２５】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０３４２

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０３４２】

演出制御用ＣＰＵ１１２０は、受信した演出制御コマンドに従ってキャラクターＲＯＭ（図示略）から必要なデータを読み出す。キャラクターＲＯＭは、演出表示装置１００９に表示されるキャラクター画像データ、具体的には、人物、文字、図形または記号等（演出図柄を含む）をあらかじめ格納しておくためのものである。演出制御用ＣＰＵは、キャラクターＲＯＭから読み出したデータをＶＤＰ（図示略）に出力する。ＶＤＰは、演出制御用ＣＰＵ１１２０から入力されたデータに基づいて表示制御を実行する。

【手続補正２６】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０３４５

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 3 4 5 】

さらに、演出制御用CPU 1 1 2 0 は、出力ポート（図示略）を介してランプドライバ基板 1 0 3 5 に対してLEDを駆動する信号を出力する。また、演出制御用CPUは、出力ポート（図示略）を介して音声制御基板 1 0 7 0 に対して音番号データを出力する。

【 手 続 補 正 2 7 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 3 7 0

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 3 7 0 】

このようにシール保護カバー 1 2 2 8 は、カバー部材 1 2 0 2 の前面側から後面側に向けて押し込むことでカバー部材 1 2 0 2 に係止することができるようになっている。そして係止された装着状態において、第1被覆片 1 6 2 0 及び第2被覆片 1 6 2 1 の内面周縁が位置決め凸条 1 4 1 1 , 1 4 2 1 及び位置決め角部 1 4 1 2 , 1 4 2 2 それぞれの当接規制面 1 4 1 3 , 1 4 2 3 に当接することで、第1被覆片 1 6 2 0 及び第2被覆片 1 6 2 1 の内面側辺部と封印シール 1 4 0 0 の表面 1 4 0 0 a との対向面が互いに離間配置されて非接触状態に維持される。よって、シール保護カバー 1 2 2 8 を当接規制面 1 4 1 3 , 1 4 2 3 に当接した状態で前後にスライドさせて封印部 1 2 2 4 , 1 2 2 9 に対して着脱する際においても、封印シール 1 4 0 0 に接触することがないとともに、装着した状態において、シール保護カバー 1 2 2 8 に何らかの外力が付与されても、封印シール 1 4 0 0 に直接伝わるることがないので、封印シール 1 4 0 0 の破損が防止される。

【 手 続 補 正 2 8 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 3 7 8

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 3 7 8 】

また、封印シール 1 4 0 0 は、該封印シール 1 4 0 0 の粘着力を低下させるために所定の溶剤（例えば、溶剤Aや溶剤Bなど）が用いられたときに該溶剤が使用された痕跡を示す第1溶剤使用表示部 1 4 5 0 A ~ 1 4 5 0 D や第2溶剤使用表示部 1 4 6 0 A ~ 1 4 6 0 D を有することで、溶剤を使用して封印シール 1 4 0 0 の粘着力を低下させようとした場合、該封印シール 1 4 0 0 の第1溶剤使用表示部 1 4 5 0 A ~ 1 4 5 0 D や第2溶剤使用表示部 1 4 6 0 A ~ 1 4 6 0 D に該溶剤が使用された痕跡（例えば、第1溶剤使用表示部 1 4 5 0 A ~ 1 4 5 0 D や第2溶剤使用表示部 1 4 6 0 A ~ 1 4 6 0 D が薄くなる）が残ることで、溶剤を使用して封印シール 1 4 0 0 の粘着力を低下させようとしたことがわかるようになるため、例えば、第3者が溶剤により封印シール 1 4 0 0 を剥離して基板ケース 1 2 0 0 を開封した後、不正な主基板 1 0 3 1 を収納した基板ケース 1 2 0 0 に、剥離した封印シール 1 4 0 0 を再度貼付されても、基板ケース 1 2 0 0 が開封されたことを容易に判別することが可能となる。

【 手 続 補 正 2 9 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 3 9 1

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 3 9 1 】

また、図24に示すように、本実施例2では、基板ケース 1 2 0 0 は、パチンコ遊技機 1 0 0 1 の背面略中央位置に取り付けられている。また、各種ケーブル 1 7 0 0 が接続される基板側コネクタ（図示略）が臨むコネクタ用開口 1 2 3 6 は、基板ケース 1 2 0 0 の上辺部に沿って配設されている。そして、主基板 1 0 3 1 に接続されるこれらケーブル 1 7 0 0 は、例えば右側方の配線挿通部 1 7 5 0 にまとめて挿通されている。

【手続補正 30】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0397

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0397】

また、本実施例 2 では、ベース側封印部 1229 及びカバー側封印部 1224 からなる封印部の周囲には、貼付された封印シール 1400 の周囲を囲むように周壁部である位置決め凸条 1411, 1421 が形成されていることで、封印シール 400 を剥離する際に周囲の位置決め凸条 1411, 1421 が邪魔になって剥離しにくくなるため、溶剤により剥離した封印シール 400 を再度貼付するといった不正行為を抑制できる。